

政策評価書（要旨） （事後の事業評価）

事業名	個人携帯地对空誘導弾のフォローアップ	担当部局	経理装備局システム装備課
政策体系	I-4-(2)-② 開発	実施時期	平成19年1月～19年3月

事業の内容 91式携帯地对空誘導弾のフォローアップとして、ライフサイクルコストを抑制しつつ、昼夜間を問わず低高度で攻撃を行う航空機等を撃破するために使用する近距離用の個人携帯地对空誘導弾（改）を開発した。	事前評価時（概算要求時）					
	14	15	16	17	18	完了年度
	← 試作 →					17年度
	技術試験 実用試験					研究経費 約27億円
実施結果						
14	15	16	17	18	完了年度	
← 試作 →					18年度	
技術試験 実用試験					研究経費 約26億円	
*目標の捕捉・追隨に係る小型実装化技術の確立のための変更である。						

評価の内容

事業の目的 91式携帯地对空誘導弾は、今後増大すると見積られる夜間や低高度からの航空機等による攻撃への対処能力（夜間交戦性や低空要撃性）が限定されている。このため、今回のフォローアップを行い、ライフサイクルコストの低減を図るとともに、昼夜兼用照準具及び赤外線画像誘導方式の採用による目標の発見・捕捉能力向上に伴う夜間交戦能力の改善、信号処理能力の向上による低高度目標対処能力の改善及び煙の少ない推進薬への変更による秘匿性の改善を図った個人携帯地对空誘導弾（改）を開発し、夜間や低高度から攻撃してくる航空機等を撃破する能力を高めることを目的とする。	達成状況 ① 達成効果 以下の技術項目の達成により、将来の経空脅威（航空機等による攻撃）である夜間や低高度から攻撃する航空機等を近距離において撃破することが可能となった。 ア 夜間交戦性 イ 低高度目標対処能力 ウ 秘匿性 を図った。 また、併せてライフサイクルコストの低減を図った。
② 達成時期 平成14年度から試作を開始し、平成18年度に開発を完了した。 なお、当初計画は、平成17年度終了予定であったが、目標の捕捉・追隨に係る小型実装化技術の確立のため1年間延長した。	③ 教訓等事項 開発の成果のうち、個人携帯型の地对空誘導弾としては、世界で初の赤外線画像誘導方式を採用したシーカの開発となった。また、昼夜兼用照準具を採用することにより、夜間や低高度からの航空機等による攻撃への対処能力を向上させることができた。さらに、開発の過程において、小型実装化技術の確立に関する成果（システムの使用環境を考慮した民生部品の活用）が得られ、将来装備品の開発に活用可能なものとなった。

今後の対応

今後、陸上自衛隊の普通科連隊等への整備を進める予定である。	その他の参考情報
-------------------------------	----------